

日本発ドイツ便り～世界遺産とビールの街～

7日間の旅のうち、5日間は飛行機に乗っていた、という事実は前回書きましたが、7日目、最終日は朝に日本に到着したので、残りの1日は、何をしていたのか？というと、電車に乗っていました。というなんだか冗談のようですが、本当です。

朝から電車に乗って、前から行きたかった街に行ってきました。



ニュルンベルクから約1時間。

世界遺産と大学の町(と駅名の上の白いプレートに書いてあります。)バンベルクに到着！

以前から行ってみたいといいつつ、例によって、地図も持たず、事前の下調べも何もなく、たどり着いてしまいました。駅から観光の中心である旧市街まではちょっと離れているのですが、道路標識と勘を頼りにたどり着きました。

大晦日でしたが、この日はお店が午後には閉まってしまうので、最後の駆け込みの買い物客で街は大賑わいでした。



この広場ではちょうど市が出ていました。野菜やお肉といった生活必需品が大半。見ていると、お花屋さん大繁盛！こちらではあまり「お正月」という感覚はないのですが、やっぱり新年にお花を飾るのでしょう。皆がどんな花を買っていくのか興味があったので、ちょっと観察していましたが、どうもそれぞれ好きな花を買っていくようで、法則というか、定番というのはなさそうでした。私はカメラを片手に、買ったばかりのアツアツの焼き栗を食べながら市場見学です。☺



色とりどりの飾りを売るお店もありました。全部本物の木の枝やお花やパンなんかで出来ていて、とても可愛いです！後の事をなにも考えず、一つ買って帰ろうかとも思いましたが、なんとか思いとどまりました。それぞれの飾りには、日本のお節料理のように、なんかめでたい意味があるのかもしれませんね。



バンベルクを流れるのは、レグニッツ川です。対岸の丘の上にそびえる尖塔のある建物がバンベルクのシンボル、大聖堂です。(後で知りました。)レグニッツ川はマイン河の支流だそうです。



川沿いの、この綺麗な木組みの家並みは、「小ヴェニス」と呼ばれる地区で、昔は漁師さんたちが住む一角だったそうです。なんだか絵のようです。でもこんなに水際で、洪水でもあったらどうなるのだろう？と他人事ながら心配になりました。



旧市庁舎です。14世紀にレグニッツ川に人工的に作られた川中島にあります。こうやってみると川に浮かんでいるみたいな不思議な建物ですね。出っ張っている木組みの部分は200年ほど後に建て増された部分なのだそうです、一体どうやって重さを支えているのか？不思議で仕方がありません。



この旧市庁舎、見る角度によって印象が違うのが面白いです。これは、正面部分を橋の上から見たもの。壁の絵は、バロック式絵画、建物の中心はゴシック式だそうです。



途中で見かけた、いい感じの風景+この橋は、結構急傾斜でした。

私は、ここまで見て、満足してニュルンベルクに帰ってしまいました。
実はまだまだ他にも見所はある、と後で知ってちょっと悔しいのですが、まあ、それはそれで、次にまたこの街に帰ってくる理由があるのはいいのかな？と思います。

あと、バンベルクといえば、ビール！人口7万人くらいの街ですが、100を越えるビールの醸造所があって、ビールの種類が300くらいあるそうです。(ちなみに、ドイツのビールは種類ごとに専用のグラスがあるので、グラスも300種類ですね。)この街でしか飲めない「Rauchbier(ラオホビア)」が有名です。日本語にすると「燻製ビール」でしょうか。

燻製した麦芽を使うのが特徴で、色が濃くて、香ばしくて、苦味が強くて、アルコール度数高め(13%くらい)というのが特徴です。

なんでまた麦芽を燻製？については、「昔、醸造所の倉庫で火災があって、燻された麦芽を捨てるのがもったいないので、試しにビールを造ってみたら美味かった！」というたぐいの言い伝えがいくつかあるようです。「もったいないので、試しに」というあたりがドイツらしいような・・・。
このビールを同じくバンベルク名物の焼きソーセージや、ラオホビアに漬け込んだ豚のもも肉を焼いた料理なんかと合わせると最高！だそうです。(無理にでも飲んでみればよかったと後悔)

1000年の歴史を持つこの街、ただ散歩していても川の流れや綺麗な風景に、時間の流れが違うような気分になります。

ビール好きさんにも観光好きさんにも大満足間違いなし！のこの街。
一度行ってみませんか？